

スシラストゥティ 研究員（インドネシア）



私は、インドネシアから来ましたスシラストゥティと申します。インドネシアは、複数の大陸にまたがる主権国家で、オセアニアにいくつかの領土を有し、主に東南アジア地域に位置しています。

2016年9月現在の推計人口は、およそ2億6千万人余りです。地理的には、インドネシアは赤道上にあり、インド・オーストラリア、ヨーロッパと太平洋プレートの三つの地殻の接合点に位置しており、定期的に、地震、津波、地すべり、火山噴火、洪水、そして干ばつなど、世界中で最も災害が多発する国のひとつとなっています。

私は、防災啓発担当官として、国家災害管理局（BNPB）に勤務しています。BNPBの成り立ちは、20世紀の壊滅的なインド洋地震のような自然災害までの独立時代での防災の発展と切り離せない関係にあります。一方、こうした発展は、そのときどきの状況や報道、災害管理の認識体系若しくは方法論の変遷からも大きな影響を受けてきました。昨今の状況から、地理的、地質、水文、および人口統計学的条件によって引き起こされるさまざまな災害は、それに対処すべき国家の強靭化を図るために方針を確立するようインドネシアを鼓舞してきました。

以前、私はNGOで働いていました。そこでは、地域のまとめ役として、心のケアを担当するスタッフとして活動してきた経験を持っています。それはYEU（YAKKUM 緊急単位）と言いますが、災害時の緊急応答に焦点をあてた内容で、人道上の危機や防災への取り組みを進めるプログラムです。また、私はキリスト教系の支援機関であるCWS（Church World Service）という所での業務経験があり、インドネシアにおいて、都市難民と非保護者の地位向上プログラムを通じて彼らを保護するため、ソーシャルワーカーとして参加していました。

ADRCの客員研究員プログラムは、当該機関の活動や日本の防災におけるよりよい実践を通じて、多くの経験を得る機会を提供してくれます。2016年度の客員研究員であることは、私の名誉であると思います。このプログラムは、防災に関する私の技術や知識を豊富にさせてくれる機会を提供します。この活動は、私と私の国、とりわけ国家災害管理局に、確かな果実をもたらします。最後に、日本政府、ADRCの職員の皆様など、私の日本滞在中にご支持とご支援をくださった皆様に対して、そしてまた、私にこのような実り多い機会を与えてくれたBNPBに対して、心から感謝の意を表したいと思います。テレマカシ！